

# エムエスピーの履歴書

水谷政司

⑥

前回に引き続きパソコンの普及について触れたいと思います。何故なら、エムエスピーの設立に大きな影響を与えたからです。

オフコンの時代

はシステム作りの開発者とシステムを操作する利用者

に大きく分かれま

した。いわゆる、「私作る人、あなた使う人」の分業でした。使う人にとっては、自身の仕事を整理して、作る人に解りやすく説明する難しさ、作る人はプログラムの制約の中で使う人に即した機能の実現を、両者は容易ではありませんでした。何せ、コンパイルに一日

かかるような時代でしたから(専門用語です)。パソコンは安い

ため、

誰でも飛びつきましたが

簡単だと言われる

## パソコンが普及した理由は何か？

安さと若さと情熱と、とにかく業界関係者は沸騰

ウェアの流通事業が始まりました。と同時に、ソフトウェアの利用方法を紹介する出版事業も始まり、コンピュータ業界にパソコンが一石を投ずる事となりました。

写真は、当時私が担当していたプロダクトのカタログとパソコンを業務

例えば、全国主要都市で

開催した「ソフトウェアキャラバン」があげられます。ワープロソフト、財務管理ソフト、データベースソフト、表計算ソフトなどの各種のパッケージソフトを提供しているソフトハウスが連携して、パソコンはここまで使

ていきました。それこそ

「沸騰の時代」であったことは、お読みの方にはご理解頂けると思います。当時のパソコンは普及と同時に価格が大幅に下がりがり、下がったことにより普及が促進するといった好循環の繰返しでした。当初は軽自動車並みの



価格で契約されていたものが現在は数万で利用でき、車の価格帯とは大きく差が開きました。当時も現在も価格が下がらない自動車(むしろ上昇か?)とは比較はできないものの、その当時価格

ダウンには閉口したことを鮮明に覚えております。それだけパソコンが大衆商品化した証です。

又、丁度折よく世界標準として認知されたWINDOWSやINTELも

高機能化の波に乗っており、使いやすさが浸透し

『OAの立会人』をやっていたよかったです。(エムエスピー相談役)

BASICでも覚えるのは容易ではありませんでした。そんな時代、若いパソコン業界人はそれこそ寝食を忘れ“簡単に使えるソフトウェアを”と奔走しておりました。

その頃に現在のソフト

バンクが四谷で産声を上げ

日本でパソコンソフト

で利用する際の注意点を書いた書籍となります。書籍は、私の名前では信憑性が無いこともあり、当時ZENONのパソコン講座の講師をしていた先生に構成とお名前を頂き出版いたしました。

このようにパソコンの

業界人は良く動きました。